

「一緒にしようよ」

5歳児の子どもたちが、ステージで初めて劇あそびをしたときのことです。

ドキドキしてちょっと恥ずかしかった。

わたしも…

セリフ、わからんかになった。

ほくも…

でもFくんたちのチーム、すごい大きい声やった!

うん! 次のセリフ、どこで言うかも、ちゃんと知った。

だって、ほくたちみんなで練習したもん。

えっ!? そうなん。

ねえ、ほくたちのチームも集まって練習しようよ!

Fくんたちのチームが、おらんだら出来んから一緒にしようよ。

悲しい気持ちやから、もっと悲しい顔しよう!

うれしいときジャンプしよう!

おじいさんは身体を少し曲げたらいいよね。

自分たちでアイデアを出し合ったり、セリフの練習をするなど、心をひとつにして進めようとする子どもたちの姿に、胸が熱くなりました。

「かっこよかった!」

自分の好きな登場人物になって劇あそびを楽しんでいる4歳児の子どもたち。

あっ!... 出たぞ!

次だよ。

友だちがセリフを忘れていないと知らせる姿も見られるようになってきました。

自分の出番が来たGくんは、おずおずと立ち上がりました。

つかまえるぞ! ...

声の調子からドキドキしているGくんの気持ちが伝わってきました。

劇あそびの後…

みんな、今日のGくんどうやった?

大きい声やった。

うん! ちゃんと聞こえた。

かっこよかった!

友だちの言葉がうれしくて、Gくんは思わずにっこり! 回を重ねる度にGくんの表情は明るくなってきました。

あー、おいしかった!

保育参観当日、友だちと協力し合って自分たちの劇あそびを披露することが出来た子どもたちの喜びが、キラキラ輝く瞳から伝わってきました。